

RS ウイルス感染症が増加しています！

RS ウイルス感染症（Respiratory syncytial virus infection）は、RS ウイルスの感染（飛沫感染、接触感染）による呼吸器の感染症です。

香川県では、8月上旬より患者報告定点医療機関からの患者の報告数が増え、1 定点当たりの報告患者数が第35週（8月29日～9月4日）で2.9人、第36週（9月5日～9月11日）で3.5人と、過去10年平均の1.4人を上回っています。今後、さらに流行する可能性がありますので注意が必要です！！

【県内全域定点当たり患者数（経過及び過去の発生状況）令和4年36週現在】出典：香川県感染症発生動向調査



症状：2～8日（典型的には4～6日）の潜伏期間を経て、発熱や咳、鼻水等の症状が出現します。新生児や生後6カ月以内の乳児、生後24カ月以内のハイリスク児（未熟児、免疫不全児、血流異常を伴う先天性心疾患を有する児等）がRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎や肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。



感染経路：RSウイルスに感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に飛び散るしぶきをあびて吸い込む飛沫感染や、感染している人との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品（ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等）を触ったりなめたりすることによる間接的な接触感染で感染します。

治療：RSウイルス感染症には特効薬はありません。治療は基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。



予防と対策



飛沫感染対策としてのマスク着用や咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等を徹底することが重要です。

具体的には、

- 咳などの呼吸器症状がある年長児や成人は、可能な限り乳児との接触を避けましょう。
- 乳幼児に日常的に接する人は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用しましょう。
- 子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめに消毒用アルコールや塩素系の消毒剤等で消毒しましょう。
- 流水、石鹸による手洗いを徹底し、加えてアルコール製剤による手指消毒を行いましょう。